

出題のねらい

㉑は、文学的文章です。昭和を代表する時代小説作家、山本周五郎の短篇「ならぬ堪忍」の全文を出題しました。昭和20年に発表された作品です。七十年以上前のものですが、最小限の登場人物によるシンプルなストーリー、骨太なテーマ、やや膨らみに欠ける感はあるものの、ごく短い作品ながら読者に深い感銘を与える作品たりえています。一見、忠君愛国思想を説いているようですが、根底を流れているのはヒューマニズムであり、若者の命を大切に思う気持ちが溢れています。

叔父甥二人の主人公の心情を、設問を解きつつ、場面を追って明らかにしていって欲しいと思って出題しました。

㉒は、藤井知昭「美、をはかる一音の文化の諸相をめぐって」からの出題です。題にある通り、音の文化にどのようなものがあるかを説明した論説的文章であり、音の文化をそれぞれの社会や地域でどのように認識しているかを丁寧に読み解くことがポイントとなります。



【解答】(50点)

問一	a 紅潮	b 乱暴	c 真剣	
	d 和解	e 嘲笑		(各2点×5)
問二	1 オ	2 エ	3 ウ	
	4 イ	5 ア		(各2点×5)
問三	X 面目	Y 臆病		(各3点×2)
問四	①エ	②ア		(各3点×2)
問五	武士道			(4点)
問六	それ以上のことはなにも話せない(15字)			(4点)
問七	いまに戦になったらおれのほんとうの ねうちを見せてやるぞ(27字)			(4点)
問八	武士の命は主君への奉公のために捧げる ものであって、喧嘩などの私事に捨てる べきではないから(44字)			(6点)

【解説】

問一 漢字の知識を問う設問です。a 紅潮とe 嘲笑の出来が散々でした。高潮・嘲笑と「潮」の字を使ったものが、とりわけ目につきました。5問すべて正解は極めて稀でした。本学の漢字問題に難問は出ません。よく使う漢字ばかりです。漢字を出題することは、オープンキャンパスでたびたびアナウンスしています。読める、わかるにとどまらず、書けるようにしておきましょう。

問二 空欄前後の文と文とのつながり方を聞いています。読解力を問う、初歩的な設問です。5つの空欄に対して選択肢も5つですから、容易なはずですが。容易な設問で確実に得点することも、実力のうち。一度全部当てはめてみた後、もう一度見直すことができれば、全問正解になるでしょう。

問三 この言葉が入るだろうと予想した上で、本文後半に出てくることを確認すればいい、簡単な設問であると思って出題しました。Yの臆病はよくできていましたが、Xの面目は半分弱の正解率でした。「堪忍」「我慢」という誤答が目立ちました。「面目が立つ(立たない)」という語は、自分が使用することはなくても、知識としては知っていて欲しい語です。

問四 この2つの正答率も低く、しかもア～エまで満遍なく選ばれていました。全く知らない語であった人が多いようです。前問の「面目」同様、「幅を利かす」「御馬前の役」も知識として身に付けておいて欲しい語です。普段から知らない言い回しが出てきたら、辞書を引くように心がけましょう。

問五 読解力を問う設問です。③を含む上森又十郎のセリフを要約すると、「侍の命は馬前の役に立てるべきなのに、私事に捨てるのは道にはずれている」となります。つまり、道とは侍の道なのです。この言い換えとして、後の文章から漢字3文字の「武士道」を探し出すのは難しくないでしょう。

「御家訓」という誤答がかなり目につきました。が、上森の言葉に反対する意図で大六は「御家訓」を引用していますし、すぐ後で再び上森は「(御家訓に従っても)道にはず」れていると繰り返します。的外れな答えと言えます。

問六 「厳秘」とは固く秘めたこと、の意です。この場面に即していえば、誰にも口外できないこととなります。そういうニュアンスを含む一節と言うと、正解以外にはないのですが、いろいろな誤答がありました。やはり、これも「厳秘」の意味がわからなかったた

めであると思われます。

問七 本文中に傍線を引くことをせずに出題したのですが、高い正解率でした。大六が土下座したのは印象深いくだりだったのでしょう。そのくだりを見つけられれば正解を導くのは容易です。恥ずかしい行為を敢えてやってのけた大六の心中の思い。一言で言えば、「今に見ている」ということです。

問八 前半の上森のセリフに注目すれば解答は容易です。「奉公」を使う正解例の前半が3点、「私事」を使う同じく後半を3点としました。「なぜか」と聞いているのですから、「から・ので」で止めていないのは減点、字数が少なすぎるのも減点しました。正解例はあくまで一例であって、その通りである必要はありません。「武士道にはずれる」「生きて御奉公する」といった文言が入っても結構です。2通りの命の使い方が書けていればよいのです。得点率はかなり高かったのですが、50字ということになれば、文章表現力も問うことになります。奉公・私事の語が入っていても、文意の通らない解答は減点、甚だしい場合は零点としました。

奉公を誤って「奉行」と書いた答案をかなり見ました。これは「ぶぎょう」です。減点しました。



【解答】(50点)

問一	a 依拠	b 視野	c 固執	
	d 披露	e 要請		(各2点×5)
問二	i ウ	ii イ	iii ア	
	iv オ			(各3点×4)
問三	傾向			(3点)
問四	ウ			(3点)
問五	エ			(3点)
問六	エ			(3点)
問七	ア			(3点)
問八	リズム、メ	～	された芸術	(4点)
問九	音の文化を、ヨーロッパ社会のような音の芸術として認識するとは限らないから。			(三十八字) (5点)
問十	ウ			(4点)

【解説】

問一 ㊦で説明した通りです。毎年、漢字が必ず問われるのですから、問題集での書き取りの練習は、必須です。a依拠、c固執、d披露に誤答が大きく目立ちました。

問二 接続詞を補充する問題です。論説的文章では定番とも言える、接続詞を補う空欄補充の問題です。①前後の文脈がどのような関係にあるか、②その関係を繋ぐ場合にどの接続詞が相応しいか、これらをきちんと理解しておいて下さい。そのためにも、それぞれの接続詞の役割を理解した上で、繰り返し練習して下さい。ii「だが」、iv「いっぽう」の誤答が目立ちました。

問三 基本的な語彙を問う問題です。「風潮」とはどのような意味かを踏まえた上で、本文中から類義的な語を探す問題です。「風潮」とは、「時代の推移に伴って変わる世の中の傾向や流れ」を意味する言葉です。

問四 問三と同じく、基本的な語句を問う問題です。「一線を画す」「境界線を引いてくぎりをつける」ところから、「相互の区別をはっきりさせる」意味で用いられた語句です。

問五 馴染みの無い言葉に対して、文脈からその語の意味を読み取れるかを問う問題です。ヴェツダ族の文化が「人類文化の原型とも言える生活形態を残すこと」に対して、「人類の初期的文化を類比する実証(証拠)」と述べています。つまり、ヴェツダ族

公募制推薦入試／国語(後期)

の生活形態のそれぞれから、それらが人類文化の原型を残すものと判断したことになります。ここから、類例（それぞれの生活形態）から判断（人類文化の原型を残す）したことになるので、選択肢エの「類例を集めて一般化する」になります。

問六 空欄補充の問題です。ヴェツダ族と「ともに行動することは容易でない」にも関わらず、「生活をともにした」とあります。その理由が「仲間と〈A〉される」とあるのですから、仲間として認められなければ生活をともにできるわけがありません。ここから、解答はエしかありません。

問七 空欄補充から本文内容を正確に読み取れているかを問う問題です。前文で「非ヨーロッパ諸民族の言語には音楽という語をもたない事例は多い。」とあります。それにも関わらず、音楽という語が用いられる「契機」（きっかけ）が何かという問いかけが出題のポイントです。ここから考えれば、ヨーロッパ文明との接触であることは明白です。

問八 本文の構成を理解できているかを問う問題です。本文では、始めに一般的なイメージとして、ヨーロッパで発達したクラシック音楽の概念を説明した後に、それとは異なる様々な非ヨーロッパの音の文化について説明しています。この点を理解していれば、解答を始めの部分から導き出すことができるはずです。前述の接続詞の問題と同様に、論説的文章では、その構成がどのようになっているかを意識しながら読むことが重要です。

問九 本文内容を正確に読み取れているかを問う問題です。「音楽という語を持たない」とは、言い換えれば、「音楽として認識していない」ことになります。そして、その「音楽」とは「ヨーロッパ社会の音の芸術」です。また、非ヨーロッパ諸民族にとっては、「音楽」ではなく「音の文化」であることを明確に示す必要があります。「価値観が違う」「文化が違う」「認識が違う」といった言葉だけで説明した解答も多く見られましたが、それでは説明として不十分です。

問十 本文内容を正確に読み取れているかを問う問題です。このような出題の場合に注意すべきことは、①選択肢内の文の前半部と後半部のどちらかが違っている、②一般的には正しい（正しく思える）が本文中で筆者は書いていない、という二つを選択から外すことです。勿論、全く本文と違う選択肢というのは、選択から外すことは容易です。今回の

場合、選択肢エが②にあたります。なんとなく選択するのではなく、本文内容と選択肢とを丁寧に比較する必要があります。アは、本文の構成上、音楽とは異なる例として挙げているので、選択から外れます。イは、「音楽ではなく」とありますが、本文では、学校教育体系のなかで日本の伝統的音楽として取り上げられたことが書かれているので、音楽として認められていることがわかり、選択肢から外れます。よって、解答はウとなります。